

「新メンバーが続々と！」

前回の稽古では、完成したばかりの新作を、皆さんに初見で演じてもらい、大まかなキャストイングは私の頭の中だけで行った。

ただ・・・メインで主役となる「加瀬会長・七十二歳」という人物を誰に演じてもらおうか？という問題にぶち当たった。

いえね、描いている時から「加瀬会長」は誰が演じるのだろうか？つてのが、心の中に引っ掛かってはいたのですよ。

「加瀬会長」を女性に変更して、劇団ふあんハウスの役者軍団のなかで層の厚い女性陣の誰かに演じてもらうか？とも考えたけれど、それはあまりにも無茶で無理な話なので、「誰に加瀬会長をやってもらうか？」つてのは、とりあえず横において、執筆活動を続けた。

そういった事は、舞台セットにしてもしかり。

いちいちあの場面はどうするんだ？とか、あのシーンからこのシーンはどんな転換にすればいいのか？等に縛られていても話は進まない。

だから「舞台上演する」つて事すらも、ぜーんぶ忘れて、細かいこと

を後回しにして描き上げたのが、今回の「明日への旅路」という作品。

そんな「明日への旅路」だが、演じてくれる各役者の配役は、一応誰々さんは何役つてのを振り分けてみたら意外としっくり収まっている。

ただ・・・「加瀬会長」を演じる役者だけが、どーひねくつても適任者が思い浮かばない。

どうしよう？「加瀬会長」が決めるい事には、新作「明日(あす)への旅路」は上演できない。

それでも本番はまだ先だし、そのうち見つかるさあーと言いたいところだが、でもキャストが決まっていなければ稽古になりやしない。

しかも万が一「加瀬会長」を演じる役者が見つからなきゃ大変・・・はありあと、ため息をついていたら小森さんからの連絡。

「七十代前半の方で、ふあんハウスのホームページをご覧になって興味を持ったって方がいる」との事。

よおーし！善は急げ！  
なんでも早くに行動するつてのが劇団ふあんハウスの信条だからね。

昨日、稽古が始まる一時間ほど前、稽古場の最寄り駅すぐのところにある、今やふあんハウスにとつては「行きつけ」となった純喫茶で、その方、習志野大吾さんとの面談を行う。

色々な話をしたあと、劇団ふあんハウスの歴史を説明している過程で、私がプロの役者をやっていた頃、付き人をしたことのある大俳優の恩師に、大吾さんも昔大変お世話になった！というすごい共通点があつて、もおくびつくり！（数十年前、その恩師の劇団に私が出演した芝居も、大吾さんはご覧になっていた。）  
なんだかんだでずいぶんと話しは盛り上がり、小一時間ほど話をして稽古場へ移動。

稽古場には、新作を読み込んだであろうメンバー達が勢ぞろい。  
まずは大吾さんを皆さんに紹介して、私にとつての最大の関心事項である

「脚本の感想」を聞くと、「大丈夫！」  
「そうきたかあーつて感じ」「ふあんハウスには珍しい恋愛モノ！」「面白い！」「感動した」等々、みな一様に評価してくれたのでホツとはする。

しかし、いざ読み合わせを始めると、描いている時は夢中になっていたのが気づかなかつたけれど、登場人物達のセリフが長い！長い！聞いていてあきてしまうほど長い！

それにシーンそのものも偏っていて、全体のバランスも良くない。

「読物」「会話劇小説」としてはありなのかもしれないが、これを舞台上で演じるには、スリムにして場面を整理しなきゃどうしようもない。

そんな中での大吾さん！最初、みんなのでこぼこした読み合わせと、私の描いたダラダラした長いセリフのやり取りを聞いていて、「参加するのやーめた」とならないか心配だったけれど、ちよつと読んでいただくと、初見であるにもかかわらず雰囲気のある渋い芝居で、結構ノリノリ。

稽古終了後、感想を伺えばストーリーに感動してくださったようで、正式に参加して下さる事となつた！  
いやあー良かった！良かった！

探すのに一番苦労する登場人物だろうなあーと思つていただけに、大吾さんが参加してくださるのは大きい。

他にも、久々に目の見えないメンバーの、佐野晃芳さんも正式に参加が決定。

佐野さんは劇団設立当初、劇団ふあんハウスの演劇教室に参加して下さったことがあつて、今回縁あつて出演希望者として参加してくれた。

彼はなにせポジティブで声がかくて明るい！そして何よりも「熱意」と「やる気」に満ちている。

これから山あり谷ありの稽古になりますが、よろしくお願いしますね。

こうして、新作「明日への旅路」は幸先よく動き始めたのでした。